

千里眼 観戦記 新日対UWF大爆発編

1 1986年(S61)1月4日 新日本プロレス 後樂園ホール
藤原善明対木戸修
アントニオ猪木対ジム・ドゥーガン

今でこそ正月の4日は新日のドーム大会が定着したが、この当時は新日は後樂園ホールで開幕するのが恒例であった。

この年の目玉は当然、出戻りUWFである。特にそのエース格の前田日明はUWF移籍にからむ猪木への遺恨を試合ではらすことを公言してはばかりず、両者が対決すれば、完全なセメントマッチになると評判を呼んでいた。

ところが早速抗争スタートかと思われたこの日から、なんと猪木への挑戦権を賭けたUWF どちらのリーグ戦が行われることになった。まあ今なら、ひとりだけ猪木の刺客とかいって反則専門みたいなやつを入れてリーグ戦をやるんだろうが、この時はホントにUWFだけでリーグ戦をやった。

藤原と木戸の試合内容はともかく、結末が両者リングアウトというUWFにはないはずのものになってしまい、たしかセコンドについた前田がリングを叩いて不満を表明していた。そういうプロレスになじもうとしない態度はその後外人勢の不満を呼び込むことになってしまう。

ところでジム・ドゥーガンってなんだったかな。まったく覚えてない。

2 1986年(S61年)2月6日 新日本プロレス 両国国技館
アントニオ猪木対藤原善明

UWF代表決定リーグ戦は大方の期待が前田の優勝だったが(当然、千里眼もそう思った)おいしいカードは先延ばしというのがこの当時の新日戦略で、おかげで前田やプロディがらみで幻のカード

がずいぶん出来てしまう。

で、なんと代表に勝ち残ったのは藤原善明。それはともかくとしてこの日は他のUWF勢はマッチメイクされていなかった。こっちのほうが問題だ。せめて坂口や藤波と前田のからむタッグでもやってくれればよかったのだが、そこまで出し惜しみされちゃねえ。

試合は関節技の本家と元祖がどうたらこうたら、という妙なテーマの試合。藤原のアキレス腱固めに猪木が「それじゃ角度が違うぞ。そんなんじゃおれはまいったしないぞ。

修行がたらねえんだ。」と藤原を罵倒するという場面があった。

まあ長州のサソリ固めにも藤波の4の字固めにも猪木はギブアップしなかったわけで、猪木を倒そうと思ったらフォールを狙うのが一番、ということか。

3 1986年（S61年）3月26日 新日本プロレス 東京体育館

アントニオ猪木		前田口明
藤波辰己		藤原善明
木村健吾	対	木戸修
星野勘太郎		高田伸彦
上田馬之助		山崎一夫

（5対5 イリミネーションマッチ）

抗争の第一段階の決着戦に猪木が提案してきたのが本邦初公開のこの試合形式。場外に落ちたら負けというルールは後に不評を買ったが、初めて見たこの試合ではゲーム性の高いおもしろい試合だった。なんでも完全決着ならいいというもんじゃない。

特に猪木チームには長年の仇敵のはずの上田馬之助が入ることになり戦前の予想でも「上田なんか信用できるか。どうせ裏切ってくるぞ。」というものが多く、実際入場してきても猪木達と視線を合せず、また試合に参加しようとしないので、千里眼の相棒は「ぜったいおかしい。」を連発していたのでこちらも試合より上田の動向が気になってしかたがない。

そして猪木がなにやら上田に耳打ちした瞬間、遂に上田が動いた。

なんと前田に突進、足をつかんでそのままふたりとも場外へ落ちてしまったのだ。

技一切なし。前田と場外アウトになるためにだけ登場したわけだ。しかもそれが会場を埋める新日ファンは大喝采であった。

そういえば前田が入場してくるときになぜか猪木コールが大爆発。相棒によれば熊殺しウィリー戦もそうだったとのこと。

相手が出てくるときにエース級のコールが爆発するのはこの後10月にもっとすごいがある。

4 1986年（S61年）10月9日 新日本プロレス 両国国技館

I NOK I 闘魂ライブ

アントニオ猪木対レオン・スピックス

前田日明対ドン・ナカヤ・ニールセン

猪木祭りの元祖ともいうべき大会。ところがやってみたらそれは前田祭りだった。カード発表のときから異様な盛り上がりは、前田の初の異種格闘技戦への期待が高まり過ぎていたからで、試合が近づくにつれてどんどんレッドゾーンになってくる。

にやけた顔でニールセンが入場してくると今ならブーイングだろうが、この頃はまだそういうものがプロレス会場には無かった。その代わりに前田コールの大爆発である。

「キャプチュード」の曲が聞き取れないほどの前田コールの嵐。後にも先にもあんなすごいコールは聞いたこともない。もっとも千里眼も前田コールしてたけどね。

そして会場はなにをやってもうけちゃう状態に突入。

セコンドにカール・ゴッチが姿を見せるだけで「オーッ」

ニールセンが股割りをやりはじめた時に、負け時と前田が足刀をみせ、蹴り足が完全に前田の顔に密着するシーンにまた「ウォーッ」

試合開始前に千里眼の声はつぶれた。

アりに勝った男、レオン・スピックスをプロレス会場で見れるとは思わなかったが、後にもっとすごいところで見ることになるので、詳細はそこで。